

知識情報基盤研究分野が残したもの

米澤 剛†, 大西 克実†, 吉田 大介†

1. はじまりは coffee !

研究室で作業をしていると北先生から「coff!」という件名のメールが一通届いた。私が大阪市立大学に着任した2011年4月から1, 2ヶ月経った頃だと記憶している。メールを開いてみると内容は「coffee!」という一行だけである。おそらく誤送信か何かだと思い、気に留めないでいた。しばらくしてラガワン先生が「行きましょうか。コーヒーカップ持っていますか?」と私の部屋に来られた。手にはマグカップを持っておられる。私は何のことか良く分からないまま、とりあえず自分のマグカップを持ってついて行くと北先生の研究室に入られた。

研究室に入るなりコーヒーのいい香りが漂い、テーブルにはコーヒーメーカーで淹れたてのコーヒーが置かれ、「お待ちしていましたよ。コーヒーでもいかがですか。」と北先生が笑顔で座られていた。

私が所属することになった創造都市研究科は2003年4月大阪駅前開設された「都市」をキーコンセプトにした社会人向けの大学院であり、修士課程の都市情報学専攻知識情報基盤研究分野は情報学、情報ネットワーク、空間情報学、図書館情報学など幅広い分野を扱っている。2011年4月時点で私を含め北克一先生、ベンカテッシュラガワン先生、大西克実先生で構成されており、これまでもこの「coff!」メールを合図に手の空いている教員が集まり、北先生に

淹れて頂いたコーヒーとともに雑談をするという習慣(談話会)が続いていたそう。

着任して間もない私は正直まだ右も左も分からない状態であったため、研究科内の会議や委員会に出席しても分からないことも多かったが、この談話会で北先生に聞くとすべて解決した。また、研究科が開設されるまでの経緯や2007年に編成された知識情報基盤研究分野以前のこと、さらには社会人大学院教育についてのご教示頂いた。

雑談という軽いおしゃべり程度のときもあれば、そのまま議論が白熱し講義モードに突入することもしばしばあった。今となっては、その時私はとても恵まれた時間と環境にいたことを実感する。その後、北先生は2013年3月に大阪市立大学を退官され、後任として2013年4月より吉田大介先生が着任され現在の教員構成となった。

残念ながら「coff!」談話会はその後は継続されていないが、この北先生の談話会で得られた知識や情報は現在の私の大学教員生活に大いに役立ち、貴重な財産になっていることは言うまでもない。

学生にとっての財産は何であろうか。研究科の特色あるカリキュラムの一つに「ワークショップ」という講義があった。私はこのワークショップという講義こそ学生にとっての、さらには知識情報基盤研究分野の財産ではないかと思っている。

† 大阪市立大学大学院工学研究科

2. ワークショップという知の創造型ネッ

トワーク

ワークショップは創造都市研究科 7 つの研究分野ごとに教員複数がコーディネータとなり企画や運営をおこない、毎週、当該分野に関連する第一人者を外部から講師として招いておこなう講義である。前期・後期の間ほぼ毎週開催されるため、企画する教員側は正直大変であるが学生側にとってはさまざまな分野の最先端の話を聞くことができるのだからこれほど貴重な機会はない。

知識情報基盤研究分野の場合、ワークショップはオープンな講義と位置づけているため受講するのは学生に限らず、修了生の OB・OG、関係研究者、そのテーマに興味のある飛び入りの人など様々である。面白いことに参加された飛び入りの方が翌年度研究科に入学するということも度々おこっていた。ワークショップは人と人をつなぐのである。ホームページや SNS に毎回欠かさず情報を掲載して頂いた大西先生の功績である。

ワークショップは講義だけでは終わらない。毎回講義の後には懇親会が設定されており、講師と学生は場所を移してそれぞれの立場を忘れ一緒に議論・討論する。そして、講義では話せない裏話や秘話を聞くこともでき、時にはお酒に任せて講師に意見することも。このような(懇親会も含めた)ワークショップほど有意義な講義は他にはないだろう。学生たちだけではない。私たち教員も毎回刺激を受ける。懇親会が開きになると、講師と学生とが「今度さっき話したことをいっしょにやりましょうよ。」などと話しているのを聞いたときは本当にうれしい気持ちでいっぱいである。

北先生を含めこれまでの教員たちが研究科設立時から継続してきたワークショップは人と人をつなぐだけでなく、新しいシーズを生み出す力を持っているまさに知の創造型ネットワークなのである。

しかしながら、創造都市研究科は新しい社会人向け大学院である都市経営研究科の開設にともない 2018 年 4 月以降の修士課程の学生募集をすでに停止しており、同様に博士課程も 2019 年 4 月以降の学生募集を停止する予定である。そのため、このワークショップの講義も 2017 年度をもってすでに終了している。年間 20 数名の講師の方にご講演頂いており、重複もしているので一概には言えないがこれまで 300 名ほどの方がワークショップの講師を担当されたことになる。そこから生まれたネットワークやシーズも数知れない。とても残念ではあるが、ワークショップに関わったすべての人の財産となってくれば私たちも嬉しい限りである。

2017 年 12 月、研究分野としては最後のワークショップの一回に北先生を外部講師としてお招きし、「情報環境生態系の変容と知識情報」というタイトルでご講演頂ける機会に恵まれた。それはこれまでのワークショップの集大成とも言える内容であった。

3. 知識は力なり

私は北先生の講義を聞くのは先生ご自身の最終講義を除いて、もしかすると初めてだったかもしれない。学生にとっては普段のレギュラーの先生の講義とはスタイルが異なっていたかもしれないが、この講義は先生から知識情報基盤研究分野に関わるすべての人へのメッセージであったと私は受

け取った。

配布資料には 200 冊にも及ぶ研究分野に関連する本の紹介が先生のコメントとともに掲載されている。72 ページにも及ぶ配布資料はこれまでのワークショップにおいて私の知る限り最も厚みのある資料であった。

北先生とお話させて頂くと先生の持つ知識の広さや情報の多さに驚かされる。どの専門分野の方とも対等に話をする事ができ、更に深く議論できるのである。場合によっては異分野の専門家を議論で打ち負かすことも。先生はよく頭の中に図書館を作れば、いつでもどこでもすぐに情報を引き出せるとおっしゃっている。私自身そこへ行き着くまでの道のりはまだまだ長い、このワークショップでは先生の頭の中の図書館、もちろごく一部だが、それを垣間見たような気がする。

英国の哲学者であるフランシス・ベーコンは「知識は力なり」と説いているが、まさにその通りである。私にはこの言葉と先生の姿がどうしても重なってしまう。

創造都市研究科は学生が在籍する間は教育をおこなうが、すでに教員は 2018 年 4 月より本学大学院工学研究科の都市系専攻（ラガワン、米澤）と電子情報系専攻（大西、吉田）を主たる所属としている。新しい所属先でも「ワークショップ」のような魅力あるチャレンジを形が違ってでも学生に対してやってみたいという気持ちはある。

それがいずれどこかで知識情報基盤のネットワークと結びつけば尚良いと思う。北先生、それぞれの立場は異なりますがまたどこかで「coff!」談話会でもいかがでしょうか。新しいアイデアがたくさん生まれるかもしれませんので。

（附記）

大西 克実

北先生におかれましてはこの度古希をお迎えになられ心よりお祝いを申し上げます。先生が退官されてから 5 年が過ぎ、大阪市立大学では創造都市研究科の募集停止を始め変化が続いていますが、先生におかれましてはお目にかかる機会毎にお変わりなく、これからも日々愉しく過ごされる事を心から祈念しております。

募集停止に伴い院生の指導などで御相談させていただく機会も少なくなり、先生のご見識を賜る機会が減ってしまい寂しく思っておりますが、御指導なさった多くの院生の皆様にこのような場を用意していただける北先生を大変うらやましくも思っておりますので、お酒の趣味だけでなく今後も先生をお手本にさせていただきたく思っております。改めまして、この度はおめでとうございます。

吉田 大介

古希をお迎えになられますことを心よりお祝い申し上げます。大学教員に採用が決まった際に、北先生から「研究者の人生は修羅の道だ」という厳しい現実のお言葉とともに、その後も様々なご助言や激励を頂いてきました。現在の自分があるのは、このような暖かいご支援を賜われたおかげだと改めて感謝しております。北先生のように、多くの優秀な人材を輩出し、ゼミ生から愛される指導者に少しでもなれるよう、日々精進していきたいと考えております。

ますますご壮健にてご活躍されることをお祈り申し上げます。

【受理：2018 年 9 月 10 日】